

主日礼拝

2026年10月4日 10時20分～

司式:

奏楽:

「裸で逃げて」

『出エジプト記』32章7～14節では、モーセがシナイ山で神から律法を授かっている間に、イスラエルの民が金の子牛を造り、それを神として礼拝したことが語られます。イスラエルの民は、エジプトから救い出してくださった主なる神を簡単に捨ててしまうのです。神は民の墮落をご覧になり、「私の怒りは彼らに対して燃え、彼らを滅ぼし尽くす」とモーセに告げられます。しかしモーセは神に思いとどまるよう懇願します。エジプトから民を導き出した神が、荒れ野で彼らを滅ぼしたなら、エジプト人から「あの神は悪意をもって彼らを導き出した」と思われるからです。また、アブラハム、イサク、イスラエルに誓われた「子孫を増やして、約束の土地を与える」という約束を思い起こすよう神に願います。モーセの執り成しを受けて、主なる神は民に下すと告げた災いを思い直されます。神を捨てる民に対して、怒りを抑え、祝福の契約を守り、民を捨てないで、赦そうとする神の憐れみが示されます。

『マルコによる福音書』14章51～52節では、ゲツセマネで主イエスが逮捕された直後、弟子たちが皆、主を見捨てて逃げた場面が続いて「一人の若者」が、亜麻布をまとって主について行こうとしていたにもかかわらず、人々に捕らえられそうになると、亜麻布を脱ぎ捨てて裸で逃げてしまいます。この若者が誰であるかを明らかにしないのは、誰もが自分を守るために主を捨ててしまう弱さを持っているのだと言おうとしているからではないでしょうか。しかしそのような者を罪から救うために、たった一人で十字架刑から逃げずに、進んで行かれる主イエスのお姿が対照的に浮かび上がっています。

＜神の招き＞

前奏 奏
招詞 詞
賛美歌 歌

『キリストよ、汝は日なり、光なり』 J.S. バッハ
エゼキエル書34章16節 a
3 7 5

＜神の言葉＞

祈禱 書
聖書

聖霊の照らしを求める祈り
出エジプト記32章7～14節 (旧約136頁)
マルコによる福音書14章51～52節 (新約 92頁)

子ども説教
交読詩編
賛美歌
説教
祈禱
賛美歌

26編6～12節 (31頁)
4 4 2
「裸で逃げて」 八木浩史牧師
教会福音讃美歌 4 6 6

＜感謝の応答＞

信仰告白
奉献
主の祈り
聖餐

使徒信条
献金 祈禱: 献金当番
(週報表紙、ホームページ掲載)
3 7 6 配餐:

＜派遣＞

頌栄
祝福
報告
後奏

2 6
オリーブコンサート&星野富弘詩画展のための祈り
10月誕生者祝福

礼拝当番: (役員:)
音響: 献金当番:
映像: